

## 世界史 B

1 次の歴史に関する文章を読み、下記の問いに答えなさい。

2003年に生じたイラク戦争や、2022年に勃発したロシアによるウクライナ侵攻など、二度の世界大戦を経験した20世紀に続き、21世紀も世界各地で人々が戦火を交えている。人々は歴史の中で、なぜこのような戦いを繰り返しているのだろうか。古代からの人々の「戦い」の歴史について辿ってみることにしよう。

古代オリエントでは、バビロン第1王朝を滅ぼした小アジアの(1)とエジプトが、たびたび抗争を繰り返していた。この2勢力は、支配領域を拡大するなかで接近・衝突したものと考えられるが、このような領域をめぐる争いは古代にたびたび生じている。特に、初期に(2)人の都市国家が多数建設されていたメソポタミアは、地形的に開けている土地であるため、周辺諸民族の侵入なども容易であり、このような争いが頻発していたことは想像に難くない。

一方、(3)を中心とするギリシア諸ポリスの連合軍と(A)との戦争であったペルシア戦争は、異なる事情から生じている。この戦争は、(A)領内のギリシア人植民市の反乱を援助した(3)などに対し、(A)側がその報復として侵攻したことで開戦した。このように、支配領域の広さではなく、特定の地域に対する覇権をめぐる争いは、ローマとカルタゴの間に生じた(4)が好例である。

中国でも他地域と同様に、支配領域や覇権をめぐる戦いが多く生じたが、これには北方遊牧民との関わりが多く見られる。たとえば、秦から前漢にかけて強大な勢力を誇った(5)や、のちに北魏を建て、中国北部を支配した(6)などは、後漢滅亡後の中国においては「五胡」と総称され、中国内に相次いで国家を形成するなどの動きを見せた。

しかし、中国史上の戦いにおいて外すことができないのは、反乱の存在である。中国史上初の農民反乱とされ、秦滅亡の遠因となった(B)の乱以降、王朝の末期には必ずと言ってよいほど大きな民衆反乱が発生している。また、8世紀

に節度史の安祿山らによって生じた (7) の乱，同じ王朝下で塩の密売商が主導して生じた (8) の乱などは，腐敗した中央政府の政治への批判や，民衆の負荷増大への反発として生じた反乱であり，後世において「抵抗権(革命権)」<sup>(j)</sup>として確立する理念の走りといってもよいものかもしれない。

このように見ていくと，歴史上の「戦い」は自分たちの権利を守り，拡大させていく営みの中で生じたものであることが見えてくる。しかし，これらの戦いの裏で，多数の人命が失われていることを見過ごすことはできないであろう。<sup>(k)</sup>

問1. 文中の (1) ～ (8) に適する語句を〔語群〕から選び，その記号を答えなさい。

〔語 群〕

- |          |          |          |
|----------|----------|----------|
| ア. アッシリア | イ. ヒッタイト | ウ. シュメール |
| エ. ヘブライ  | オ. アテネ   | カ. マケドニア |
| キ. 同盟市戦争 | ク. ポエニ戦争 | ケ. 匈奴    |
| コ. 突厥    | サ. 柔然    | シ. 鮮卑    |
| ス. 安史    | セ. 八王    | ソ. 黄巾    |
| タ. 黄巢    |          |          |

問2. 文中の (A) と (B) に入る語句の組み合わせとして正しいものを1つ選び，その記号を答えなさい。

- |              |          |            |          |
|--------------|----------|------------|----------|
| ア. (A)アケメネス朝 | (B)陳勝・呉広 | イ. (A)ササン朝 | (B)陳勝・呉広 |
| ウ. (A)アケメネス朝 | (B)呉楚七国  | エ. (A)ササン朝 | (B)呉楚七国  |

問3. 下線部(a)について、この王朝に関連する歴史について説明した次の文 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを1つ選び、その記号を答えなさい。

a. バビロン第1王朝の成立以前には、メソポタミアを統一的に支配する王朝が現れたことはなかった。

b. バビロン第1王朝の王ハンムラビは、復讐法の原則をもつ法典を発布した。

ア. a－正      b－正                                  イ. a－正      b－誤

ウ. a－誤      b－正                                  エ. a－誤      b－誤

問4. 下線部(b)に関連して、世界史上の領土拡大に関する説明文として、次のうちから正しくないものを1つ選び、その記号を答えなさい。

ア. ローマ帝国は、ディオクレティアヌス帝の時に領土が最大となった。

イ. 前漢の武帝は、現在のベトナム北部や朝鮮半島北部を支配下に組み入れた。

ウ. アレクサンドロス大王は、インド西北部まで領土を拡大した。

エ. ノルマンディー公ウィリアムは、イングランドを征服した。

問5. 下線部(c)について、この言葉は「2つの川の間」という意味を持つ。これに関連して、歴史家ヘロドトスがエジプト文明に言及した際にその名を残した大河は何か。次のうちから正しいものを1つ選び、その記号を答えなさい。

ア. エーヤワディー川                                  イ. ザンベジ川

ウ. ナイル川    エ. メコン川

問6. 下線部(d)に関連して、エジプト古代王朝の時代にも周辺民族が侵入し、一時政権を奪われたことがあった。この時エジプトに侵入した民族は何か。次のうちから正しいものを1つ選び、その記号を答えなさい。

ア. カッシート    イ. クノッソス

ウ. ヒクソス    エ. ミタンニ

問7. 下線部(e)について、古代共和政ローマで生じた出来事の説明文として、次のうちから正しくないものを1つ選び、その記号を答えなさい。

- ア. エトルリア人の王を廃し、共和政を成立させた。
- イ. 初の成文法として、十二表法が作られた。
- ウ. リキニウス・セクスティウス法では、コンスルのうち1名を平民出身とすることが定められた。
- エ. ホルテンシウス法では、大土地所有が制限された。

問8. 下線部(f)について、カルタゴの歴史について説明した次の文aとbの正誤の組み合わせとして正しいものを1つ選び、その記号を答えなさい。

- a. アラム人の植民活動の結果、北アフリカに建設された。
  - b. 武将スキピオは、ハンニバル率いるローマとの戦いに勝利した。
- ア. a－正      b－正                      イ. a－正      b－誤  
ウ. a－誤      b－正                      エ. a－誤      b－誤

問9. 下線部(g)について、この時代を生きた人物としてふさわしくないのは誰か。次のうちから正しいものを1つ選び、その記号を答えなさい。

- ア. 王莽                      イ. 項羽                      ウ. 楊堅                      エ. 劉邦

問10. 下線部(h)について、後漢滅亡後から隋の再統一までの間の中国について説明した次の文aとbの正誤の組み合わせとして正しいものを1つ選び、その記号を答えなさい。

- a. 三国時代の魏で、官吏登用制度として九品中正が施行された。
  - b. 北魏で始まった均田制は、のちの王朝にも受け継がれた。
- ア. a－正      b－正                      イ. a－正      b－誤  
ウ. a－誤      b－正                      エ. a－誤      b－誤

問 11. 下線部(i)について、8世紀の出来事として、次のうちから正しくないものを1つ選び、その記号を答えなさい。

- ア. 第4代正統カリフのアリーが暗殺された。
- イ. コルドバを首都とし、後ウマイヤ朝が成立した。
- ウ. タラス河畔の戦いで、唐がイスラーム勢力に敗れた。
- エ. ウマイヤ朝が打倒され、アッバース朝が成立した。

問 12. 下線部(j)に関連して、中世ヨーロッパでは領主による農民への圧力が強まったことから、それに反発した民衆が大規模な反乱をおこした。このような反乱のうち、14世紀のイギリスで生じた反乱として、次のうちから正しいものを1つ選び、その記号を答えなさい。

- ア. ジャックリーの乱
- イ. スパルタクスの乱
- ウ. プガチョフの乱
- エ. ワット＝タイラーの乱

問 13. 下線部(k)に関連して、マウリヤ朝のある君主は、征服戦争において多数の犠牲を出したことを悔いたことから、ダルマに基づく政治体制の確立を目指した。この君主として、次のうちから正しいものを1つ選び、その記号を答えなさい。

- ア. アショーカ王
- イ. カニシカ王
- ウ. チャンドラグプタ王
- エ. ハルシャ王

2

ドイツのライヒ(国)とラント(邦)の関係は神聖ローマ帝国の時代にまでさかのぼる。次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

西ゴート王国の滅亡後、732年にガリアに侵入してきたイスラーム勢力はメロヴィング朝のフランク王国と衝突した。小ピピンの子であるカール大帝(シャルルマーニュ)は、西ヨーロッパの広大な領土を征服して、フランク王国を強国へと発展させた。教皇(1)からローマ帝国皇帝の冠を授与されたカールは、西ローマ帝国を受け継ぐ支配者となった。これにより古代ローマ、ゲルマン、キリスト教が融合された西ヨーロッパ中世世界の基礎が築かれた。しかしカールの死後、王国は東フランク、西フランク、中部フランクの3王国に分裂した。

962年に東フランク王国のオットー1世は、教皇からローマ皇帝の冠を授けられた。これが、神聖ローマ帝国の起源といわれている。10世紀頃から教会の改革運動が展開していくなかで、神聖ローマ皇帝とローマ教皇は、叙任権をめぐる衝突したが、(2)協約により政教分離の妥協が成立し、皇帝が聖職者の任命権を失った。

歴代皇帝は、(3)政策に関心を抱き、自国の統治を怠ったため、帝国内では諸侯や自由都市の力が強まった。皇帝不在の大空位時代を経て、1356年に(4)は金印勅書を発布し、神聖ローマ皇帝を選ぶ資格を聖俗の七選帝侯に認めた。しかし15世紀以降、ハプスブルク家が皇帝位を独占するようになった。

15世紀後半に、皇帝マクシミリアン1世はブルゴーニュの公女と結婚して(5)を獲得し、彼の子孫も巧みな婚姻政策と海外進出によって領土を拡張した。マクシミリアンの孫はスペイン王(6)として即位したのち、フランス王フランソワ1世をおさえて、神聖ローマ皇帝となり、新大陸などの海外領土を支配し全盛期を誇った。

17世紀の三十年戦争の後、(7)条約により帝国内の諸邦がほぼ完全に主権を獲得したため、神聖ローマ帝国は有名無実化し、主権国家体制が確立した。かわって、北ドイツでプロイセンが台頭した。その後、(あ)がドイツ諸邦を保護下に置いて、(8)同盟を結成させたのを機に、1806年、名実ともに神聖ローマ帝国は解体した。

問1. 下線部(a)について、このときの戦いとフランク王国の宮宰の組み合わせとして正しいものを1つ選び、その記号を答えなさい。

- ア. カタラウヌムの戦い — クローヴィス
- イ. カタラウヌムの戦い — カール＝マルテル
- ウ. トゥール・ポワティエ間の戦い — クローヴィス
- エ. トゥール・ポワティエ間の戦い — カール＝マルテル

問2. 下線部(b)のカール大帝について述べた文として、次のうちから正しくないものを1つ選び、その記号を答えなさい。

- ア. 遊牧民のアヴァール人を撃退した。
- イ. アリウス派を信仰するブルグンド王国を滅ぼした。
- ウ. 巡察使の制度を確立して伯を監督した。
- エ. イスラーム勢力と戦い、スペイン辺境伯領を置いた。

問3. 文中の  ～  に適する語句を〔語群〕から選び、その記号を答えなさい。

〔語 群〕

- |           |             |             |
|-----------|-------------|-------------|
| ア. カルロス1世 | イ. グレゴリウス1世 | ウ. イベリア     |
| エ. ラシュタット | オ. カール4世    | カ. フェリペ2世   |
| キ. ハンザ    | ク. チロル地方    | ケ. フェリペ1世   |
| コ. レオ3世   | サ. ネーデルラント  | シ. ウェストファリア |
| ス. ヴォルムス  | セ. イタリア     | ソ. ライン      |
| タ. ラテラノ   |             |             |

問4. 下線部(c)の理由として、次のうちから正しいものを1つ選び、その記号を答えなさい。

- ア. 教皇の要請に応じて北イタリアの治安を回復した。
- イ. ラヴェンナ地方を寄進して教皇領とした。
- ウ. ケルン大聖堂を建立してキリスト教の威信を高めた。
- エ. 教会運営を信徒にまかせる帝国教会政策を採用した。

問5. 下線部(d)の闘争について述べた文として、次のうちから正しいものを1つ選び、その記号を答えなさい。

- ア. ビザンツ皇帝レオン3世が、聖像禁止令を出した。
- イ. ドイツ国王ハインリヒ4世が、教皇グレゴリウス7世と対立し一時破門された。
- ウ. 教皇インノケンティウス3世は、フランス王フィリップ4世と対立した。
- エ. 教皇アレクサンデル6世が、十字軍をイェルサレムに派遣した。

問6. 下線部(e)に関連して、この金印勅書において神聖ローマ皇帝の選出権を認められた選帝侯ではない人物を次のうちから1つ選び、その記号を答えなさい。

- ア. ファルツ伯
- イ. ベーメン王
- ウ. バイエレン公
- エ. ブランデンブルク辺境伯

問7. 下線部(f)の戦争について述べた文として、次のうちから正しいものを1つ選び、その記号を答えなさい。

- ア. スペイン国王フェリペ5世は、カトリック陣営を支援した。
- イ. フランスの宰相リシュリューは、プロテスタント陣営を支援した。
- ウ. スウェーデン国王グスタフ＝アドルフは、カトリック陣営の中心となって戦った。
- エ. スイスとベーメン(ボヘミア)の独立を正式に承認した。



問8. 文中の あ に当てはまる人名を答えなさい。

3 冷戦形成期のヨーロッパとアジアについて、次の文章を読み、下記の問いに答えなさい。

第二次世界大戦末期から 1950 年代前半にかけて、国際関係は新たな局面を迎えた。国際社会が自由主義陣営と社会主義陣営に分断され、対立を深めた状況が生まれたからである。アメリカ合衆国とソ連をそれぞれの陣営の筆頭に置くこのような東西対立の状況は、両国間の直接的な軍事衝突を伴わなかったため「冷たい戦争(冷戦)」と呼ばれた。

戦後、東欧において親ソ政権が矢継ぎ早に成立し、フランスやイタリアでも共産党の躍進が見られたことから、アメリカは、1947 年「トルーマン＝ドクトリン」や「マーシャル＝プラン」といった政策を打ち出し、ソ連の勢力の拡大をけん制した。前者は、内戦状態にあった (A) と海峡問題でソ連と対立を深めた (B) を援助することで、ソ連の膨張主義を封じ込める狙いを持った政策であり、後者は、正式には「ヨーロッパ経済復興援助計画」と称され、戦後の困窮がヨーロッパの共産化を誘発するという懸念から打ち出された政策である。これに対して、ソ連は同年、共産党の情報交換の国際的機関を組織するなどして対抗した。

第二次世界大戦後、ドイツは米英仏ソ 4 か国に分割され占領されたが、東西対立が激化すると、米英仏の西側占領地区の統合化がはかられ、ソ連が管理する東側占領地区との分断が進んだ。そして、東ドイツ領内にありながら米英仏ソ 4 か国に分割管理されていたベルリンは、ヨーロッパにおける冷戦の最前線となった。1948 年 6 月、ソ連は、西ドイツ政府の樹立を前提とする米英仏 3 国の通貨改革に反対し、西ベルリンへの交通を遮断した。西側 3 国は、西ベルリンに物資を空輸することで対応した。西側は、さらに翌 49 年 4 月に北大西洋条約機構を結成し、西欧に強力な軍事力を配備した。ヨーロッパでの一触即発の危機に際して、同年 5 月、ソ連はベルリン封鎖を解除するに至ったが、ドイツおよびベルリンの東西分断は確定した。

ヨーロッパでの東西対立は、政治的、経済的、並びに思想的な面で深刻な状況を呈していたが、軍事的な衝突には至らず「戦争なき冷戦」にかろうじてとどまった。しかし、同時期におけるアジア・アフリカでは、状況がまったく異なってい

た。これらの地域においては、戦後植民地からの独立の動きが相次ぎ、そのような動きが冷戦が世界的に拡大する過程と重なった。独立の際に、東西両陣営が直接的ないし間接的に介入し、しばしば武力が用いられたのである。冷戦と深くかかわりながら、「熱い戦争」が展開された典型例が朝鮮戦争であった。

朝鮮は、第二次世界大戦中の1943年に開催された (C) 会談で (D) からの独立を約束されていたが、戦後、米ソ両国によって北緯 (E) 度線を境にして分割占領され、1948年にアメリカが支援する (F) と、社会主義陣営に組み入れられた (G) (北朝鮮)が別々の国家として成立した。1950年6月、北朝鮮が統一を目指して北緯 (E) 度線を越えて南進し、ここに朝鮮戦争が勃発した。国連安全保障理事会は、北朝鮮の行動を侵略と認定し、国連軍の派遣を決議した。<sup>(d)</sup>米軍を中心とする国連軍が (F) 側を支援し、(H) 国境近くに迫った段階で、(H) が北朝鮮側に立ち、人民義勇軍を派遣した。戦争は東西両陣営の代理戦争の特徴を持つようになった。以降、1953年7月に休戦協定が成立するまで、激しい戦闘が展開され膨大な犠牲が払われた。冷戦の影響を受けた朝鮮は、国家の分断が固定化され今日に至っている。

問1. 文中の (A) ~ (H) に適する国名、都市名、数字を〔語群〕から選び、その記号を答えなさい。

〔語 群〕

- |         |          |                |
|---------|----------|----------------|
| ア. スペイン | イ. ポルトガル | ウ. トルコ         |
| エ. インド  | オ. カナダ   | カ. ギリシア        |
| キ. 日本   | ク. ベトナム  | ケ. インドネシア      |
| コ. タイ   | サ. 大韓民国  | シ. 朝鮮民主主義人民共和国 |
| ス. キューバ | セ. メキシコ  | ソ. 中華人民共和国     |
| タ. 17   | チ. 38    | ツ. 51          |
| テ. ヤルタ  | ト. カイロ   |                |

問 2. 下線部(a)に該当し、国連発足時の原加盟国となったのはどの国か。次のうちから正しいものを1つ選び、その記号を答えなさい。

ア. ハンガリー                      イ. ブルガリア                      ウ. ポーランド

問 3. 下線部(b)の呼称と、ソ連から距離を置き独自の社会主義路線を目指した結果、1948年に同機関を除名された国をそれぞれ〔語群〕から選び、それらの記号を答えなさい。

〔語 群〕

ア. コミンフォルム                      イ. コミンテルン                      ウ. コムーネ  
エ. チェコスロヴァキア                      オ. ユーゴスラヴィア                      カ. アルバニア

問 4. 下線部(c)の機構の略語と、それに対抗して1955年に結成された東側の安全保障機構の名称をそれぞれ〔語群〕から選び、それらの記号を答えなさい。

〔語 群〕

ア. CSCE                                      イ. NATO  
ウ. METO                                      エ. ワルシャワ条約機構  
オ. 中央条約機構                              カ. 全欧安全保障協力機構

問 5. 下線部(d)の機関は、現在、常任理事国と10か国の非常任理事国から成る。常任理事国の数を次のうちから1つ選び、その記号を答えなさい。また、常任理事国が1国のみでの反対でも否決できる権利はなんと呼ばれているか答えなさい。

ア. 5                                      イ. 7                                      ウ. 9